

## 逗子開成高等学校 平成 25 年度卒業式

### 「学 校 長 式 辞」

今年の冬は例年になく厳しく、関東地方も 2 月には 2 度の大雪に見舞われ、春の到来が待たれる毎日でしたが、このところ、ようやく日差しに春らしい暖かさが感じられるようになりました。この早春の佳き日に、多数のご来賓並びに保護者の皆さまに、卒業式にご参列いただきありがとうございます。

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。

6 年前に中学 1 年生として入学したときには、まだあどけなさが残る少年たちでしたが、今日、卒業生の皆さんを目の前にすると、この 6 年間ですっかり成長し逞しく立派な青年となったなと感じます。皆さんの脳裏には、この 6 年間の思い出が次々に蘇っているのではないのでしょうか。中学入学直後で友人がうまく作れるかどうか不安だったクラス合宿、逗子開成ならではの OP 帆走実習や映画鑑賞、まさしく異文化体験であった NZ 研修旅行やアジア研究旅行、青春のエネルギーに満ち溢れた体育祭や開成祭。そして、クラブ活動や日々の授業など、実に多くのことを学び体験してきました。楽しかったこと、辛かったこと、嬉しかったこと、悩んだことなどすべてが、皆さんの成長の糧となったはずです。

さて、皆さんの卒業にあたり 2 つのことをお話したいと思います。

まず一つ目は、「学校の勉強は役に立たないのか？」についてです。

世の中では、「学校で勉強したことは社会に出てからは何の役にも立っていない。微分積分など社会に出てから使ったことがない。」などと言うことを耳にすることがありますが、本当にそうでしょうか。確かに社会にでてから日常的に微分積分を使う人はそう多くはないでしょう。しかし、学校で学んだことが入試にしか役立たないとしたら、こんなにもったいない話はありません。このような事を言う人は、学校で学び体験したことが役に立たないというよりは、社会に出てから活かそうとしなかったのではないかと思います。

ここで、皆さんに簡単な問題を出しますので、考えてみてください。

「いま、地球の円周に沿ってぴったりとロープを巻きつけたとします。次に、このロープの長

さを1 mだけ長くして、ロープと地球の間に均等にすき間を作ったとしたら、そのすき間はどれぐらいの大きさになるでしょうか。次の中から最も近いものを選びなさい。」

1 m    10 c m    1 c m    1 m m    0.1 m m    0.01 m m

この問題は、中学までに習う円周の公式と、方程式の知識を使えば簡単に解ける問題です。計算結果は約 16 c mとなり、10 c mが最も近いということになります。直感的に考えた値にくらべて大きくないですか。しかも、すき間の大きさは球の大きさに関係ありません。地球のかわりに月でも、サッカーボールでも結果は同じです。これは、答えを求める過程をよく見ると気づくはずですが、後でじっくり計算してみてください。

ある大学の先生が、これと同じ問題を大学生に出題したところ、京都の3つの大学での平均正答率は20%を切ったそうです。それについて学生たちは、この問題で方程式の知識が使えることに気がつかなかった。あるいは使おうと思わなかったと言っています。中学校で学んだ知識を数学の試験では使えても、数学の授業から離れた日常の場面では役立てることができなかったのです。

学校で学んだ知識がそのまま役に立つこともあるでしょう。薬品や放射線に関する知識などがあると自分の身を守ることになるかも知れません。また、科学的な知識があれば、非科学的な商品に安易に騙されることもないでしょう。しかし、その多くは直接役に立つとは限りません。大事なことは、いろいろなものが見方ができたり、論理的な考え方ができたりということです。中学高校時代に様々な教科を学ぶのは、そのためです。そうすれば、何かの問題に直面したときに、公正な判断や的確な行動ができるのではないのでしょうか。

皆さんは、この6年間でたくさんの知識を身につけました。これからは、その知識を断片的なものにとせず、どのように活かすのか、また問題解決にあたり様々な側面からアプローチし、論理的に考えるということをは心がけてほしいと思います。

次に二つ目は、「若者の内向き志向について」です。

2011年に日本青少年研究所によって、日本、アメリカ、中国、韓国の4カ国で「高校生の生活意識と外国への関心」についての調査が行われました。いつの世も大人は、「今の若者は…」という言い方をするので、あまり気にすることもないかも知れませんが、どうやら「内向き志向」の傾向はあるようです。

この調査結果を見てみると、他国に比べて日本の高校生は自己肯定感や積極性が低くなっています。「現状を変えようとするより、そのまま受け入れる方が楽」と考える割合が6割で、1980年の調査結果の倍と著しく増加しています。一方では、「失敗を恐れず、未知のものに挑

戦する人」になりたいと7割の人が考えています。また、「外国へ旅行したい」「外国の文化や生活に興味がある」は8割前後なのに対して、「将来外国で働いてみたい」「海外留学してみたい」と考えている人は5割を切っています。何かにチャレンジしたい気持ちはあるけれど、今の状態の方が居心地よく、リスクを冒したくないというところでしょうか。私は逗子開成の生徒はもっと積極性があると信じていますが、皆さんはどう考えていますか。

現在はグローバル化が進み、多様性や異文化に対する理解や共生が求められています。「内向き志向」では多角的な視点でものを見ることができません。これからは、留学でも旅行でも構いません。世界に飛び出し自分の目で、足で地球というものを感じてください。

皆さんはそれぞれ将来の希望を持っているはずです。何か目的に向かって進もうとした時に、いろいろな問題や障害があるのは当たり前のことです。しかし、我々は目標を見失いがちになると、環境のせいにして、できない理由を探したりしがちです。自分の未来を切り開くのは自分自身です。誰かを当てにしているでも始まりません。

今、皆さんは何を考えていますか。それが皆さんの未来の原型なのです。そして、そこからどう行動するかが人生を作っていきます。このことについて、真剣に考えたことがありますか。自分自身の思考と行動を観察してみてください。豊かで価値ある未来をつくりそうでしょうか。それともつまらない未来をつくりそうでしょうか。困難であっても自分の思考と行動を本当に望むものにすることができれば、輝かしい未来が開けるでしょう。

皆さんが社会にでたときに多くの困難や、想定外のことに遭遇するかも知れません。それでも失敗を恐れず様々なことにチャレンジしてください。今日ここで一緒に卒業を祝い夢を語り合うことができなかった内門君の分まで、皆さんそれぞれの夢に向かって進んで行ってください。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご子息のご卒業、本当におめでとうございます。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。

それでは、269名の卒業生の皆さん一人一人の旅立ちを祝うとともに、これからの健闘を祈り、アメリカの作家マーク・トウェインの言葉を餞として送ります。

**「20年後に人は、やったことよりやらなかったことを悔いるものだ。だから、網を放ち港を出、帆を揚げ、風をとらえて、探検せよ、夢見よ、発見せよ。」**

卒業おめでとう。

平成26年3月1日

学校法人逗子開成学園 逗子開成高等学校

校長 高橋 純